研究通信　第５号	岡崎市立東海中学校 令和３年６月１８日（金） 教師支援部　森・手島

太田先生の授業（社会科）から学ぶ

授業感想メモのご協力ありがとうございました。集約したものをご紹介します。

みなさんの授業感想メモから，今までの学習が生かせる学習課題の設定やファシリテーターとしての教師の丁寧な声かけが生徒のもっとやりたい，深めたいという意識につながったのではないかと感じました。

「学習課題や評価」の視点から

・学習課題でどこの地域と問うたところが少し疑問でした。地域が漠然としており答えづらそうでした。ただ、授業を早めに切り上げましたが、その後も追究している生徒が多かったことから、授業そのものは生徒にとってワクワクするものだったと思いました。（校長先生）

・一人調べやアップグレードタイムの設定により、参観者としてみていると、どの子も学びが継続しているように見える。ただ、その記載内容が授業者の目指すものかどうかまでは見とれなかった。（教頭先生）

・「どこの地域か」を考えていくうえで，本時までの既習学習内容が必然的に根拠として挙げられてくるため，適当な課題であったと思います。
本時の学び方を振り返り，生かそうとする姿はあったと思います。その中で，「個人としての考えや意見を持って，他者とかかわるとよい」というような内容も見られました。個としての考えをもつ機会を設けることも必要な場合があると感じました。（篤史先生）

・生徒にやり方が浸透しており，全員が目標に向かっていると感じられた。（河澄先生）

・学習課題からして，一問一答形式ではなく，総合力を用いて課題解決をする授業だとわかった。（加藤先生）

・各教科の特性に応じた「見方・考え方」が研究の内容に即したものでなくていいのか疑問に思いました。
自分の役割について振り返る場面で、自分の役割って何？と数人の生徒に聞いたところ、半分くらいの生徒が答えてくれました。３年生だと全然答えられなかったので、実践をしていくうえで自分の役割を自覚させる手立てが必要だと思いました。感想です。（竹内先生）

・課題に迫るためには気候・宗教・文化などの地理的な視点が必要となってくる。生徒も活動の中でそれらを中心にまとめや話し合いを行っていた。生徒の姿から見て、社会科の「見方・考え方」を働かせることができていたと思います。（斎藤先生）

・課題に対して、生徒が「必死に」取り組む姿がよかった。
「単元を貫く学習課題」への生徒の取り組み方として、過去の学習記録をタブレット上で確認ができるため、これまでの学習を踏まえた記述がされていてよかった。
自分の取り組みに対する振り返りとして、「もっと積極的に」「みんなでもっと深めたい」というこ

とが書かれていた。みんな同じような記述になるのではないかと思った。自分の取り組みが具体的に書けるように、生徒の練習をしていく必要があると思った。（原山先生）

・資料を見てどこの地域かを考えるという学習課題によって「これって○○じゃないかな」と生徒が今まで調べていたことを生かして解決しようとしていたと思いました。また、その姿がとてもいきいきとしていたと思いました。（手島）

「ファシリテーターとしての教師の役割」の視点から

・ファシリテーターとして、生徒への声かけなど的確であったと思います。
見方、考え方は生活の特徴などはどの生徒からも出ていました。場面設定が良かったと思います。（校長先生）

・意図的なチーム構成と継続的な実践により、個々の学びが継続されていた。
信先生が意図的な机間指導をしながら、個々の話を聞いたり、問い返しをしたりする姿が随所にあり、生徒は学びを深めていたと思う。（教頭先生）

・意図された構成により，チーム内によって活動内容や活動量に大きな違いはなかったと思います。
資料が３つあったことは，個別最適化の観点からと聞き，それにより個で追究活動を進める場面も見られたチームがあったと感じました。
生徒の実態に即したきめ細かな指導案であったため，生徒への揺さぶりや問い直しも，生徒が課題に向かっていけるものであったと思います。（篤史先生）

・アップグレードタイムがあることによって、自分を高めようとしていた子が多く見られた。（稲吉先生）

・太田先生が用意された教材から、生徒が各地域の風土や特徴を推測しやすくなっており、そこから調べ学習を始め、答えに行き着いた生徒は自ら課題解決できたと自己肯定感に包まれただろう。これこそがファシリテーターなのかと愕然とした。いい意味で。（加藤先生）

・普段の指導の効果が出ているのだと思いますが生徒が話しやすい環境ができていたと思います。（竹内先生）

・まとめが不十分な生徒や、時間的（能力的）に余裕がありそうな生徒など個別の声掛けをされていた。それによってモチベーションを高めることにつながっていたと思う。生徒同士の結びつきをファシリテートする場面は各チーム一人ずつ残っていたが、残っている生徒は他の生徒からの情報だけで十分であったのか疑問が残った。必要に応じてチームの垣根を超えるのか、授業の中であらかじめチームを超えた交流を設定してもいいのか、どこまでチームにこだわるのかは今後検討したい。（斎藤先生）

・「時間に対する声かけ」「問い返し」「生徒のつなぎ」「生徒一人一人に対して、チャットを使った声かけ」「生徒の道しるべとなる投げかけ」が行われていた。
生徒は教師からの問いかけに対して、「根拠は？理由は？どうすればよいのだろう」ともっと深めようという取り組みが見られた。途中「先生のせいでよくわかんなくなった・・・」と話しているチームもあったが、「自分たちの考えたことをやってみよう」と修正しながら取り組んでいた。このことから、課題を自分たちの力で解決しようとしている姿が見られた。
アップグレードタイムでは、一人になる子もおらず、自分たちで新しい情報を得ようと動いてい

る姿がとてもよかった。そのあとも、自分だけの情報にせず、みんなで共有しようという姿がよかった。
説明テストの評価のポイントが周りから見ていると、少しわかりにくかった。（原山先生）

・アップグレードタイムが始まる前に、事前の仕込みとして「あのグループの○○くんも、同じ写真を見て同じ考えに至っていたよ。」と声をかけられていて、生徒がアップグレードタイムになったときに、同じ意見を持つ生徒や違う意見を持つ生徒に自分から声をかけに行くことができていたと思います。
惜しいところまで答えが出ている生徒に「なぜそう思うの。」「どうしてその考えに至ったの。」と繰り返し問い返されていて、そのチームの生徒が、参考にしていた写真の資料を、別の写真に変えている様子があり、視点を変えて考えることができていたと思います。（薫子先生）

・「いい言葉を見つけたね。」「そこまでいけたらすごいな。」など意欲的に活動したいと思える声かけにより、生徒が自分からさらに調べようと積極的に活動していると思いました。また、個人→チーム→クラス→チーム→個人という個人で始まり、個人で終わるという活動はこの授業を通してわかったことやできるようになったことを生徒が実感できておりよかったと思いました。（手島）

「ICT など学習環境面」の視点から

・3 枚の写真からある程度の地域は絞られましたが、生活の特徴が何の影響を受けているかまでは、考えることができていませんでした。補充資料が必要だったと思いました。（校長先生）

・授業前のタイピングの練習等があり、自分の思いを記載することに戸惑いを感じる生徒はいなかった。調べる手段の１つとして、ネットを自然に使う姿も見られた。（教頭先生）

・閲覧モードにするタイミングやチャットを使っての学びを深めるための全体への問い返しなど，効果的であったともいます。
板書という面では，全体への問い返しのキーワードやいくつかのチームの困り間にかかわる内容を書いてもよいと思いました。（篤史先生）

・考えないとどこか分からない写真の提示がよく、チームで学習したいと思える内容だった。（稲吉先生）

・iPad があってこその授業でしたね。
逆になければどうしてたのかなと思えるほど ICT の可能性を感じました。（加藤先生）

・３枚の写真も２セットずつ用意してあり、生徒の学びが停滞しない工夫がされていた。また、スクールタクトでのまとめに関しては、データの蓄積というところや、授業後にまとめを続ける生徒への励ましなどにつながっていく。自分の考えを表現する場面での活用は、途中で言葉を変えたり、見方を変えたりしたときに修正したくなるので、デジタルの力が活躍するな、と改めて感じました。（斎藤先生）

・スクールタクトを使うことで、過去のデータを確認することや友達の意見を見ることで、自分の考えに自信をもてる子が増えた感じがあった。タブレットを使って書くのが遅いという子も目立たず、有効的に活用できていたと思った。教師の支援として、チャットを使うという方法や生徒の取り組みを直接見に行かなくてもわかるというのが非常に便利だと思った。（原山先生）

・チームに一枚大きな写真を渡すことで、生徒が自分の手元ばかりをみてしまうのではなく、チー

ムとして活動できていたと思いました。また、ICT を活用してチーム内の活動だけでなく、チームとチームをつなげた活動ができており、自分のチームだけでは思いつかなった多様な考えに生徒が気づけていたと思いました。（手島）

「その他」の視点から

・アップデートタイムの運用の仕方を工夫するとさらによくなると思います。チームに残った生徒が必ずしも答えられるとは限らないし、理解度の低い生徒の場合はどうなるのだろうと思いました。さらに、4 枚目、5 枚目の追究資料があると上位ももっと満足感が得られると思います。
（校長先生）

・研究主任として、理論を練るだけでなく、授業公開をして、具体的な姿として示すことで、教職員個々の具体的な実践のイメージを沸かせることができる機会になりました。ありがとうございました。（教頭先生）

・社会科にとって資料は大事だということを，改めて認識しました。今回提示した資料は，課題に向かう深い学びのためによく考えられたものでした。「各教科ごとにこれは大事」といったものがよく考えられたものであることが大事だと感じました。（篤史先生）

・チーム学習と個別最適化の融合に悩んでいます。（稲吉先生）

・チーム編成のやり方をうかがったが、そこまで生徒を把握できていない教科担はどうしたらいいのだろうといまだ悩んでいます。
科目ごとにチームは異なってもいいのでしょうか。（河澄先生）

・良い社会の授業を一時間行うには十時間の準備が必要と聞いた。
机間支援の間に余裕を持って生徒と絡むその言葉の裏にはただならぬ苦労を感じました。
（加藤先生）

・全体を通して、「生徒が待つ」という時間がなく、ほとんどの時間を活動していた。とても活発で楽しそうに授業に取り組んでいたことが印象的でした。（原山先生）